

令和5年度第1回羽咋市総合教育会議 会議録（要約）

- 1 日 時 令和5年12月15日（金）
開 会 午前10時00分
閉 会 午前11時00分
- 2 場 所 羽咋市役所 302会議室
- 3 出席者 羽咋市長 岸 博一
教育長 八島 和彦
教育委員（教育長職務代理者） 今井 和秀
教育委員 岡田 規子
教育委員 西 和美
教育委員 西浦 雅人
（事務局） 総務部長兼総務課長 山本 裕一
総務部参事兼企画財政課長 和田 美紀
総務課主幹 山崎 真資
教育次長兼学校教育課長 中島 一明
企画振興室長 関軒 友則
学校教育課長補佐 北 綾子
- 4 傍聴者 1名
- 5 協議事項
（1）羽咋市の教育の現状とこれからについて
（2）教育関連事業
①学校の施設整備等について
教育環境の充実
②保護者負担の軽減と支援の拡充について
学校給食費の支援の拡充
スクールバックの購入
③ふるさと教育と歴史・文化の継承について
ふるさと教育の充実
④高い学力を維持するための学習力・教育力の向上と教職員への支援について
デジタル化（ICT教育）の更なる推進と支援の拡充
サポート・スタッフの増員等、学校支援員の拡充
（3）その他

6 会議の概要 次のとおり

○岸市長あいさつ（開会）

○協議事項

（1）羽咋市の教育の現状とこれからについて

八島教育長から羽咋市の教育の現状とこれからについて説明

（2）教育関連事業について

①学校の施設整備等について（今井教育長職務代理者から説明）

②保護者負担の軽減と支援の拡充について（岡田委員から説明）

③ふるさと教育と歴史・文化の継承について（西浦委員から説明）

④高い学力を維持するための学習力・教育力の向上と教職員への支援について（西委員から説明）

（3）その他

学校施設の整備、統合などで意見交換

八島教育長から小中学校でのいじめ問題の状況などについて報告

○八島教育長あいさつ（閉会）

【主な質疑・意見等】

【協議事項（1）について】

八島教育長：（教育の現状と課題）

まず、現状について2点。1点目は、今ほど市長も言われていたが、高い学力、質の高い教育力の維持、これをもっとより良いものにしていくために、教育環境の整備などについてお話をさせていただきたい。

今年度も、全国学力調査において県平均の5ポイント以上であり、高い学力が維持され続けていると考えている。特に、中学校3年生の学力が非常に高い。

この中学校3年生の学力を生かした進学を今後考えていかなければいけない。また、高い結果を生むのは、これまで実践を積み重ねてきたICTの効果もある。

そして一方では、英語教育の推進ということもある。令和5年度英検の合格者では、パーセンテージでいくとすごく高いものがある。高卒をマスターしたレベルの2級は11名、それから準2級は、42名取得している。これは、大変な数で

はないかと思っている。

市の方で受験料の助成を拡大していただいた。こういう取り組みが子どもたちの意欲につながっているのではと考えている。

それから、各学校へのいろいろな支援員とかスクールサポートスタッフ、それから学校図書館司書などの配置などが、先生方の多忙化改善につながり、先生方が、子どもたちと向き合っていて、教材研究なり、授業作りなどにつながり、質の高い教育力につながっていると考えている。

2点目は、ICT教育の推進と有効活用。

1人1台の端末が貸付され、通信ネットワークの環境整備や事業支援のソフト、様々なソフトを入れていただいている。AIドリル、デジタル新聞、電子図書などの積極的な導入により、ICTの活用が授業の中で日常化されていることが、非常に成果を上げているのではないかと考えている。

例えば、新聞への投稿、最近では地鳴りへの投稿も多く、「新聞を読んで感想文コンクール」など様々なコンクールで成果を上げている。

これもICTの有効活用により、子どもたちの自分の考えをまとめる力、発表する力などが養われてきた成果ではないかというふうに考えている。

課題については、大きな課題は2点あり、1点目は、長期的な視点での学校の適正配置、統廃合ということになる。

市長の話にもあったが、人口減少、少子高齢化社会も進む中で、子どもたちの適正な教育環境、こういうものを考えて取り組むことは、重要な課題であると考えている。

令和2年3月に策定された「羽咋市学校施設長寿命化計画」を基本的な考えとして、今年度は、邑知中学校校下の邑知小学校と余喜小学校を統合した。

今後は、羽咋中学校校下の4つの小学校を整備計画では、3校または2校に再編するための検討を行うということになっており、この考えをもとに、子どもたちの適正な教育環境を基盤として、進めていかなければいけないと考えている。

その他、ハード面では、統合された邑知小学校には、市の協力により、様々な支援をいただいております、空調設備や照明LED化の取り組み、それから学習環境の整備、こういうものを進めさせていただいた。

また、ソフト面では、仲間が増えたり、学び合う機会が多くなったり、子ども同士の接する機会が増えて成長に大きく役立っていると考えている。子どもたちにとっては、本当に統合してよかったと思っている。

子どもの適切な学習環境を考えた上で、今後も、羽咋市の学

校の在り方を考えていきたい。

2点目の課題については、ICTを活用した授業改善や学力の定着向上につながる活用ということなるが、大きな課題は、一人一人貸与されている端末について、耐用年数6年と考えた場合に、令和8年に更新することになる。更新にかかる大きな費用が課題だと考えてる。

交付税の中にこの費用を算定するという話もあるが、決定はしていない。

あわせて、いろいろな授業を支援するソフトやAIドリルなど、新しいものが次々と時代に合わせて出てきてる。

こういうものも、子どもたちの学力の定着や向上に向けて、より効果的なアプリなどをどうやって、導入していくか。

これにも多額の費用がかかるが、これも検討していく必要があると思ってる。

そして、先の議会にも出てきたが、生成AI。これについては、文部科学省から、まだ検討段階であると聞いているが、3月には、試行的に市内の小学校3年生から6年生を対象にAI英会話という形で、実証実験的に導入しようと考えている。

【協議事項（2）について】

今井委員：学校の施設整備等について

私の方から3点お願いしたい。

（学校の施設整備等について）

先ほど、市長の方からも、羽咋小学校は相当年数がたっていると聞いた。昭和52年に建てられて一度大規模の改修をやっているが、一番古い学校ということになっている。

それから、邑知中学校にしても昭和60年に建てられて40年近く経っている。

校舎が古いと人間と同じで、あちこち傷みと老朽化が生じてくる。毎年見直すところは直していかなければならないのではないか。昨年、防災とか消防施設等で修繕が行われたと聞いた。予算付けにしても、常に適切な環境を守るため、修繕等に目を向けていただきたい。整備については、LED化も進み、学校のトイレの洋式化についても相当進んでおり、もう完了したのかなというところへ来ていると思う。

そういうことで、施設整備と修繕等について、また努力をお願いしたい。

（教育環境の充実（複式学級の解消）について）

今年度、余喜小学校は邑知小学校に統合され、昨年までの複式学級が解消されて大変良かったなと思ってる。市と教育委

員会事務局の努力に感謝している。

しかし、現在瞬間的であるが、栗ノ保小学校で複式学級が発生していると聞いている。

これから、他の小学校でも、複式学級が恒常的に発生していくと見込まれている。

去年、余喜小学校の複式学級の授業参観に行った時も、2学年をまとめて、1人の教師が教えている。こっちの方向へ行って教えて、こっちの方向へ行って教えると、教えられていない時間は、余喜小学校の場合は、子どもの中で、学習リーダーというのを選んで、自学自習しているけれども、やはり、授業時間全部を教師が教えるという形にはなっておらず、学力の定着については、これでいいのかな、というふうな疑問を持った。

それから、教える先生の方も工夫とか努力が大変で、おそらく、これで学力がちゃんとついているのかな、という不安とか、あるいは成長段階の違う学年の違う子どもたちをまとめて見守る、そういう努力も必要で、先生は、それは大変だなと感じた。

そういった意味で複式学級について、教育委員会としても手立てをして努力をしなければいけないが、根本的には、複式学級を行わない、行う必要のない適正な学校の規模、これを実現することが一番根本的な解決になるのではないかと思っている。

これから、適正規模の教育環境をつくっていく努力。これをまた我々もしなければいけないし、行政の方も環境を整えていく必要があると思う。

(特別教室の空調設備の整備促進について)

特別教室の空調設備の整備促進をお願いしたい。

昨年ある小学校へ授業を参加に行き音楽室を見に行っていたが、夏の暑い時に、冷房が入っておらず、みんな汗をかきながら歌ったりしていた。普通教室は、当然ですけども、理科室や音楽室、特別教室にもぜひ空調の整備をしていただきたい。

岡田委員：保護者負担の軽減と支援の拡充について

3点ほどお願いしたい。

1点目ですが、現在、第3子以降及び中学生の学校給食費の無償化で子育て支援を行っている。さらなる子育て支援として、市内全児童生徒の保護者に対して学校給食費の無償化の拡大を図り、保護者の経済的軽減を進めていただきたい。

各自治体が競っているという感じがするのですが、ぜひ羽咋市にもご協力していただきたい。

2点目ですが、食材の値上がり分を公費で補填し、給食費の現状維持に努めることにご協力していただきたい。

3点目ですが、新小学校1年生へのスクールバック購入について、教材運搬の利便性や記念品として、思い出にもなり、保護者支援の拡充につながる取組でもあり、ご説明していただき、提案していただいて、令和7年度からは実現という方向へいけたらなと要望する。ランドセル購入については、近年かなり高額化へエスカレートしていきているのではないかという感想を持っている。値段も高騰しており、機能的には素晴らしいが、値段やデザインなどで全部加熱化しているのではないかと感じる。そういう状態の解消に向けても、スクールバック購入は、長い目で見るとSDGsの政策にもつながると思われ、保護者としても経済的に助かるのではないかと思うので、進めていただきたい。

西浦委員： ふるさと教育と歴史・文化の継承について

まず地元である我々羽咋にとっては、歴史を学ぶ必要がある。磐衝別命（いわつくわけのみこと）であったり、国宝指定を目指す妙成寺であったり、我々の知らないといけない歴史をしっかりと学ぶことによって、ふるさと教育というのは、豊かな心を育み、ふるさと愛を深めるとともに、これがまた情報発信力の向上につながる。

この成果として、ふるさとに関する自分の考えを新聞の地鳴りやコンクールに発表することによって、まとめる力や発表する力が養われている。

この新聞掲載によって、羽咋市のPRや市民の周知につながっていくということから、ふるさと教育を推進するための機会や場を文化・観光によるまちづくりを中心として実施していただきたい。

1つ目としては、妙成寺の国宝指定に向けた機運醸成の取り組み。

2つ目は、万葉集や短歌等の韻文文学。これは相当いいものと感じている。これに触れる取り組みを積極的に行っていただきたい。

西委員： 高い学力を維持するための学習力・教育力の向上と教職員への支援について

私の方から、高い学力を維持するためということでお話しさせていただきますが、私がお話しするまでもなく、先ほど市長さんの挨拶の中にもありましたし、教育長の方から細かく説明のあったお話ですが、もう一度お話しさせていただきます。

1点目は、子どもたちの学力を維持するというのが、目標に

向かって取り組んでいくより、難しいことかなと思う。そのためにも教育環境を充実させていただきたい。

特に、今世の中で言われている、ICT 教育環境の整備、それから学習ソフトやデジタル教材の充実をお願いしたい。

2点目は何と言っても、高い学力を維持するためには、教員の指導力の向上が、私は大きなウエイトを占めているのではないかと思う。

そういった中で、教員が指導力向上と子どもたちの教育に邁進していくためには、それを支えるスクールサポートスタッフの増員をお願いしたい。

できるだけ子どもたちと関わる時間を増やしていく、そのための大事な支援かなと思う。

また、いろんな分野から教員を支えていくという意味で、ICT 支援員や学校図書館司書、部活動指導員の継続配置をお願いしたい。

岸 市長： まず、今井委員の言われた学校の施設整備等について。

昔の羽咋中学校の改築前は、大変荒れていた。学校が整備されると、全くそういった現象が収まってしまった。当時は、学校環境が、子どもに与える影響というのは、本当に大きいと感じた。

今、邑知中学校はかなり古くなっているが、子どもたちは、素朴でそういった傾向はないが、整備はしっかりしていかなければならないと考えてる。

また、複式学級についても、地元の保護者の方々の協力を得て、早く対応していく必要があると思う。

特別教室のエアコンについては今、全部するというのは、難しいが、この辺りは、順次対応していきたいと思っている。

それから、岡田委員さんの言われていた給食費の無料化というのは、今年、中学生と第3子以降としている。

私の公約であり、新年度の予算でどこまで拡充するのか。少し小学校の方まで踏み込んでいきますけれども、どこまで、全部やってしまうのか、また、半分にするのか、今、少し予算を比較しながら対応していきたいと思う。

また、食材費の値上げ分。これは、今年度の12月補正で全て市の方で負担をするということになる。

それから、新年度の小学生のこどもの支援、スクールバックの購入については、1人3万円の祝い金があるので、これを使っていたらと思う。

それから、西浦委員の言われたふるさと教育。これは、今年
は、国民文化祭の中で、折口文学と万葉集というのを國學院大
學の先生をお招きして、そういった講演をしていただいた。子
どもたちから、上野先生の話はなかなか面白かったと聞してい
る。

さらに、妙成寺の国宝指定において、文化庁に言われたのは、
羽咋市へ行ったら、妙成寺の素晴らしいところ、これは市民全
員が共有してください、ということと言われた。

こういったことは、小さい、子どもの頃から妙成寺に行っ
ていただいて、妙成寺の素晴らしさ、五重の塔、前田家ゆかり、
それから三堂並置、そういったものの素晴らしさということ
をやはり周知していきたい。

また、万葉集については、羽咋だけではなく、氷見を抜けて
高岡、そういったところも含めながら、歴史文化の事業をし
ていきたいと思っている。

また、妙成寺の盛り上げ方についても、教育委員会だけでは
なくて、市長部局が主体となり、広くお話をしていきたい。

最後に西委員の言われた学力を維持していくというのは、ト
ップに行ってしまうと上がないので、あとは、維持をするとい
うこと。継続は力なりですが、学力だけでなく、いろんなイベ
ントも継続をしていくというのは大変で、作るときは、本当に勢
いでやるが、逆にその勢いで作ったものを継続していくという
のは、これは、学力だけではなく、イベント、祭りも大変なも
のだと思っている。

これをどうしていくかというのは、やはり教員の力、教える
力が必要だと思う。先生方がしっかりと築いてきたノウハウを
習得していただき、また子どもたちにも知っていただければと
思う。

また、スクール・サポート・スタッフ、学校図書館司書につ
いては、これも当時、私も教育委員会にいたときは、少なかっ
たんですけども、かなり八島教育長が頑張られて、やはり最
最近は、特別学級に本当は、本来は入っていただければいけない
子どもたち、やはり親御さんの関係、そういったところに時間
を取られてしまうとか、先生方が授業できない子どもたちに出
会う。そういった形でやはり、各学級に一人ぐらい、支援員と
いうのは必要なんだろうと思います。

この会議には、財政課長もいますけれど、そういったところ
のバランスを取りながらまた、羽咋市の教育力、学力、そうい
ったものを実施していきたい。

特に学力ばかりではないんですけども、スポーツ施設もか

なり老朽化しているところがあるので、年次的に潰していくものは潰していく、新たなものは新たにしていく。そういったところの計画を作りながら、地元の方々と協議しながら必要なものを構築していく。そういったことが、将来に向けた持続可能な行政を作っていくということが必要だと思う。

短期的な視野から長期的な視野、そういったものを含めながら集中的に事業を進めていきたい。

今年4月、こども課を開設した。ヤングケアラーやネグレクトなど、こども課を作ったところ、見えてきたことである。

今までに表に出てこなかった事案というのは、やはりあるので、しっかりとメンバーと行政、関係機関と連絡を取りながら、やはりこどもたちを守っていくことが必要と思う。

職員は頑張っていますので、またよろしく願いしたい。

【協議事項（3）について】

岸 市長： 他市町では、学校の統合を示している事例がある。

長い間で早くそういった方向性を出すというところもある。

急に言って、来年としますと言われても、地元は、やはり急だということもあるので、やはり少し長期で、あるいは、確実に子どもが少なくなっている、そういうことが問題ですよということを今の世代となればいいのですが、次に入ってくる保育所側や保護者の方々には、こんな状況があるということをし問題点を共有していただく必要がある。

昔は学校の適正化の委員会があったので、この辺りも時代と変わって、また共有できたということが、できないところもあるので、そういったものを少し立ち上げて、検討していく必要がある。

答申通りにすんなり行けばもう誰も苦労はしないんですけども、そういった議論を早めに出していく。そして地元へ流していくという。そういったことが必要ではないかなと思っている。

今井委員： 統合の問題については、一昔前は地域から学校をなくすということは、大変なことで、大きな事件だった。今それから考えてみると時代も変わったと思う。

私の地元の余喜小学校もそうですけれども、学校をなくすということについて、大きな反対は起こらなかった。

やはり、統合で一番利益を得るのは、誰かというと、子ども自身ですね。

子どもと保護者、この両者の利益を最大限に考えると適正規

模の学校しかないなと思う。

やはり、一番いいのは、今言った保護者と子どもたち、この考えを最優先にして進めていけばよいと思う。

それから、スクールバス。登下校もきちんと保障しますということを示していけば、これからの時代は、そんな大きな反対運動にはならないと思う。

西 委員： 今、退職して地域と関わるが多くなってきたら、今の若い方の考え方は、やっぱり昔の方とは少しまた違うなと思いつながら、そんなぐらいなんだというような意見がいろんな雑談の中でできたりしているので、今、今井さんが言われたような方向に世の中は少し動いているのかな、ということを感じます。

岸 市長： 余喜小学校もやはり親御さんたちは、納得しているんですけども、お年寄りの方が、学校がなくなると地区が衰退をするという、そんな形で少し反対される方がいた。

ただ、私は、学校がなくなったからといって、絶対に地域を衰退させないため、跡地について、しっかりと協議をしていただいた。サウンディング型市場調査をして、民間の方も入ってくるということで、行政だけではなく、民間も入る。そういった柔軟な対応をしていきたいと思っている。今、余喜地区の皆さんが一生懸命集まって跡地について、意見を出していただいている。

私は、跡地は、余喜地区のコミュニティ施設ということで、お年寄りから、子どもまでがみんな集まれる場所にとっている。

ですから、今後の残る学校についても、跡地をどのようにして考えていくか。

子どもたちの教育環境を守るというのは、行政の仕組みだと思っているが、やはり、地元の方たちの理解を受けるためには、学校の場にしっかりと振興策を示していくということが必要なのかなと思う。

八島教育長： 実際に統合を推進したものとして振り返るならば、4クラスが複式で2学級できているわけですけども、それが2年、3年と続いていた。

ただ、保護者の方から、統合してくれなんていう声を上げる、というのは、本当にこれは勇気のいることだと思う。

でも、絶対に保護者の方は、子どもたちの教育環境を考えたならば、これでいいのかなという不安は持っていたのではないかと思っていた。

ですから、まずは保護者の意向を調べようということで、PTA

にお願いしてアンケートをしたところ、やはり93.4%は、すぐ統合してくれ、近い将来統合を希望するという意見がほとんどだった。

世帯数でいうと、反対したのは1件だった。保護者の声を大事にして、3年間、複式状況の中で教育をやっているわけですから、もうすぐやらなきゃいけないということで、統合に舵を切った。このような経過があったわけです。

ですから、やはり子ども保護者の考え、教育環境はどうあるべきかということ、子どもを一番大事にしている親御さんの考えを中心に受け止め、私は統合を進めていくべきではないかと思う。

岸 市長： ものごとを進めるまでは、いろんな意見があって、終わってしまうと、何も声が出てこない。今はどうですか。

今井委員： 全然平穏。やはり、確かに地域から学校はなくなるけれども、公民館があれば地域の拠点が残りますから、それほど大きなダメージは、今の時代はもうないのかなと思う。

学校を残して、子どもが数人しかいないというのは、本末転倒なので、公民館の単位で、やはり、ものごとは、これからも続いていくと思うので、安心して受け継ぐことが可能な地域は、できていくと思う。

岸 市長： 今、公民館が残るという話をされましたけれども、私の思いとしては、公民館というのはやはり、教育部門の中での学習機能しか持たない。近年の公民館というのは、福祉関係のたまり場であったり、防災の場所になるということで、私は、将来的にはコミュニティセンター化、そういったことが多分必要だと思う。

やはり教育の中で所管していることは、市長部局もなかなか調整が取れないので、一応そういった地域で中の公民館というよりは、コミュニティ施設の中に公民館の機能を持たせる。

それ以外にも、筋トレをしたりとか、eスポーツをしたりとか、そういった溜まり場を作って、防災の機能場所にもしていくという、公民館の狭い機能よりも、もっと多機能的な機能を持たせて、地元の方々の活性化、コミュニティの場所、そういったふうに作っていく必要があるだろうと思う。

ですから、将来的には、公民館はもう廃止をして、市長部局のコミュニティセンターとし、住民の幅広いニーズに応えられる施設になっていくと思っている。

岡田委員： 児童減少について、資料1を見ると、児童6歳、5歳、4歳、

2歳、1歳の児童の編成を見ると、6歳から3歳までは、わずかながら増えている。2歳が減って、また1歳が増えているが、市の地方創生の施策があったから増えたのか。そういうのがわかるのでしょうか。

岸 市長： 去年、一昨年コロナ禍の時は、少しそういった影響で出生が少し抑えられたかな、そういう現象が見受けられた。

出生数がなかなか増えないのであれば、外からの移住も必要であろうということで、島出町の夕日ヶ丘は36区画ですけども、ほぼ埋まった。6割以上の方々は、市外から来ている。

千里浜ヒルズは、24区画ですけども、今だいたい19区画決まった。やはり、6割ほど市外から来ている

これから2期工事をするが、宅地造成というのが、外から来る子どもたちの受け皿になっているのだろうと思う。

空き家に外国の方が入って来る。人数的には、10から15人くらい外国の方の人数が増える見込みだが、そこにお子さんがいる。

子どもさんがいると、日本語が喋れない。中には親が片方、日本人で少し日本語を喋るとかが多いですけども、日本語が喋れない子どもが学校に入って、その国の言葉は、誰もできないので、その対応もしていかなければならないという課題が出てきている。

八島教育長： 教育総合会議では、いじめについて報告しないといけない。いじめについては、7件あったが、全て一過性のもので、重大事態の案件はないということで、真において、いじめ対策の本部を開くような重大案件はなかった。

次回の会議開催については、今年度内に協議事項が出てきた場合はその都度、次年度については適切な時期に開催することとした。

八島教育長が閉会のあいさつをし、会議を終了する。

午前11時00分閉会